

団体だより

女性会

画面越しでも大盛り上がり

—ZOOM茶話会を開催—

3月24日、9月に開催した「ZOOM体験セミナー」を活かすべくZOOMを使った茶話会を開催いたしました。

モニターに参加者の顔が映し出され、いつもとは違った雰囲気です。初めは少しとまどいましたが「桜が咲きそう」「車を乗り換えた」等の近況報告に加え、今日の為に取り寄せたおすすめのお菓子やお気に入りのお茶碗の紹介、普段目に見えない仕事場も映し出されるなど大変盛り上がり、あっという間に2時間が経過しました。



画面上に映し出されるメンバーの様子

また、ネット環境が整わない会員のために会場を準備しスクリーン投影して対応したところ、会場

も大盛り上がりで大変楽しい時間を過ごせました。

参加者は20名(リモート参加13名、会場参加6名)

(副会長 長谷川 郁子)



会場とのコミュニケーションもばっちりです

青年部

絵本を通じて親しみを感じて

—お金の使い方の本質を学ぶ絵本寄贈—

4月9日、子供たちにお金の大切さを教える絵本『おかねってなあに?』を、加古川市に45冊寄贈しました。絵本は、市内の小中学校や養護学校、各市立図書館に置いていただきます。

加古川市役所にて開催された寄贈式では、青年部の永戸会長から岡田加古川市長と教育委員会を所管する神吉教育指導部長に絵本を

手渡しました。受け取った市長からは「お金の仕組みが分かりやすく描かれており、子供たちがお金の役割に興味をもつ良いきっかけになる」との言葉をいただき、また、神吉部長からは「学校での消費者教育がますます重要になる中、非常にありがたい」と、お礼の言葉をいただきました。

絵本は、日本商工会議所青年部が企画した「渋沢栄一プロジェクト」の一環として作成され、約1万6500部を全国の青年部を通じて各地の学校や公立図書館などに寄贈しています。

渋沢栄一翁の玄孫である澁澤健氏が監修したこの絵本は、子供たちが手に取りやすいよう可愛いイラスト満載ですが、内容は、お金の歴史やその役割、人に役立つ仕事をすることで「ありがとう」がお金に変わることなどを、子供たちが理解しやすいようにりんごの木に例えるなど、平易な表現を用いて描かれています。また、渋沢翁も絵本の中で登場し「能(よ)く集め、能(よ)く散ぜよ」や「しずくの一滴滴が、やがて大河になる」などの名言を、それぞれ「人の力でありがとうを積み重ねる」

や「たくさんの人々の力をあわせると大きな力になる」など、子供たちにも分かりやすく説明されています。

「近代日本資本主義の父」とも言われる渋沢翁は、2024年度から発行される新一万円札の肖像画に決まっており、今年のNHK大河ドラマの主人公にも取り上げられるなど、非常に注目が集まっています。

この機会に、子供たちに日本の商工会議所創設の主唱者である渋沢翁の考え方に触れてもらい、「おかね」の大切さを知ること、地域の未来を担う子供たちの健全な成長の一助になれば幸いです。

(直前会長 片平 慎太郎)



市役所にて寄贈式を行いました